

第1 はじめに

【策定の趣旨】
「2025年大阪・関西万博」のレガシーを継承し、また「ワールドマスタースゲームズ2027関西」の開催を契機として、関西のポテンシャルを最大限活用することで、新たな価値を創造・発信し、未来社会を先導していく必要がある。また、デジタル技術や新技術の活用等を通じて人口減少社会に対応し、さらに、東京一極集中、SDGs、脱炭素社会の実現、大規模災害などの様々な課題にも対応するため、第6期広域計画を策定する。
【計画期間】令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間

第3 目指すべき関西の将来像

1 将来像

我が国の「もう一つの極」として、新次元の分権型社会を先導する関西

○政府機関等の移転や防災庁の拠点設置、広域インフラの整備等を推進するとともに、政策の優先順位を自らが決定し、実行できるよう、国の事務・権限の移譲を求めていく。これらの取組を通じ、首都機能のバックアップ機能を担うとともに、首都圏とは異なる「もう一つの極」として、分権型社会を先導していく。

誰もが豊かさを実感できる、安全・安心で持続可能な関西

○防災力の向上や医療体制の充実・強化、環境の保全・利活用、デジタル技術・新技術の活用等により、誰もが豊かな環境と利便性を享受しつつ、安心して暮らすことができる持続可能な社会を構築する。
○多様でバランスのとれた地域性を活かし、多様な働く場や教育を受ける機会等を提供することで、将来を担う若い世代をはじめ、様々な価値観やライフスタイルを有する人々が集まり住み続けることのできる、Well-beingな関西をつくる。

個性や強み、歴史や文化を活かして、新たな価値を創造・発信し、世界の中で輝く関西

○多彩な文化資源や豊かな自然等の魅力を高めるとともに、それら関西各地の資源を複合的・効果的に活用した広域観光の推進、産業の強みやポテンシャルを活かしたイノベーションの創出等に取り組み、新たな価値を創造・発信することで、世界の中での関西のプレゼンスを高めていく。

2 将来像実現のための5つの力

自治力	防災力	文化力	環境力	産業力
○広域行政を着実に実行 ○広域での処理が効率的・効果的な新たな事務の検討や、既存の事務・事業の見直し ○新たな広域自治・行政のあり方についての研究 ⇒分権型社会を先導	○阪神・淡路大震災から30年が経過、経験や教訓を継承 ○関西全体としての応援・支援体制を強化 ○ドクターヘリの効果的・効率的な運航 ○大規模災害や新たな感染症などへの備えを強化 ⇒住民の安全・安心の生活を守る	○世界文化遺産をはじめとする関西の多彩な文化資源を最大限に活用 ○文化や観光、スポーツ等のコンテンツの融合により、新たな価値を創出 ○関西のブランド力を一層向上 ⇒日本の美とところを関西から世界に発信	○豊かな自然や景観・生態系サービスを保全 ○自然環境を活かした地域の魅力向上 ○琵琶湖・淀川流域における水源保全や水環境に関する対策等の流域自治を推進 ⇒持続可能な循環型社会を実現	○大阪・関西万博のレガシーを継承 ○関西の強みやポテンシャルを活かした産業の高付加価値化やイノベーションの創出 ○農林水産業を含む産業の競争力を強化 ⇒働く場や投資先として「選ばれる関西」

3 分野別ビジョン

- 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西
- 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西
- 文化と観光で織りなす「創造の関西」、生涯スポーツの先進地域・スポーツの聖地・スポーツツーリズム先進地域関西
- 世界の中で輝き日本の未来を牽引する関西、産業を支える多様な人材が活躍する関西
- 地域環境・地球環境問題に対応し、環境・経済・社会の統合的向上による持続可能な関西
- 人・モノ・情報が集積し、新たな価値を創造・発信する世界のネットワーク拠点関西

第2 前期広域計画の取組の総括

- 第5期広域計画の3年間の取組を総括
○広域事務、政策の企画調整に関する事務、分権型社会の実現に向けた取組それぞれについて、実績や成果、今後解決すべき広域課題を明らかにするため、取組を総括

第4 第6期広域計画の取組方針

1 広域事務

広域防災		○大規模広域災害を想定した広域対応の推進 ○災害時の物資供給の円滑化の推進 ○防災・減災事業の推進
広域観光・文化・スポーツ振興	観光	○文化や自然など多様な資源を活用した関西の魅力づくり ○関西の多様な魅力を活かした広域周遊観光の更なる推進 ○受入環境の整備 ○観光振興のための連携強化
	文化	○多様な文化資源の振興や魅力向上の推進 ○連携交流による文化観光の推進 ○関西文化の次世代への継承 ○文化と経済の好循環の推進
	スポーツ	○「ワールドマスタースゲームズ2027関西」の開催支援とレガシーの継承 ○「生涯スポーツ先進地域関西」の実現 ○「スポーツの聖地関西」の実現 ○「スポーツツーリズム先進地域関西」の実現
広域産業振興	産業	○関西の優位性を活かしたイノベーションの創出・発展 ○高付加価値化による中堅・中小企業等の持続的成長 ○特色のある産業を活かした地域経済の活性化
	農林	○地産地消運動の推進による域内消費拡大 ○国内外への農林水産物の販路拡大 ○農林水産業の競争力強化 ○農林水産業を担う人材の育成・確保 ○都市との交流による農山漁村の活性化
広域医療		○ドクターヘリによる広域救急医療体制の充実 ○災害時における広域医療体制の強化 ○課題解決に向けた広域医療連携体制の構築
広域環境保全		○脱炭素社会づくり（地球温暖化対策） ○自然共生型社会づくり（生物多様性の保全） ○循環型社会づくり（サーキュラーエコノミー（循環経済）への移行） ○持続可能な社会を担う子育て（環境学習の推進）
資格試験・免許		○資格試験・免許等事務の着実な推進
広域職員研修		○幅広い視野を有する職員の養成及び業務執行能力の向上 ○構成団体間の相互理解及び職員間のネットワークの活用 ○研修の効率化

2 政策の企画調整に関する事務

- ① 「ワールドマスタースゲームズ2027関西」の開催支援
- ② 広域インフラのあり方
- ③ プラスチック対策の推進
- ④ エネルギー政策の推進
- ⑤ 特区の推進
- ⑥ イノベーションの推進
- ⑦ 琵琶湖・淀川流域対策
- ⑧ 女性活躍の推進
- ⑨ SDGsの普及推進
- ⑩ デジタル化の推進
- ⑪ 様式・基準の統一の推進
- ⑫ 広域連携による行財政改革の推進

3 分権型社会の実現に向けた取組

- 【我が国の「もう一つの極」としての関西の実現】
① 首都機能バックアップ構造の構築 ② 政府機関等の移転等 ③ 「防災庁」の地方拠点設置に係る提案等
【地方分権改革の推進】
① 国の事務・権限の移譲 ② 関西の特徴を活かした地方分権改革のあり方等の検討

第5 広域計画の推進

- 1 様々な主体との連携 産学官連携や市町村、連携団体、国との連携
- 2 住民等との協働 住民等への情報発信、住民意見の反映
- 3 広域計画の円滑な推進 「関西創生戦略」の推進、行政評価、広報・広聴活動の充実 など